

Contents

No.

1 3 5

プラネタリウム・春の番組

宇宙の中のかつしか

Viewing Katsushika from Space

上映期間：2023, 4/20 ~ 7/20

私たちが今いる「かつしか」はどんなところにあるのでしょうか？

本プラネタリウム番組では、郷土と天文の2つの視点から「かつしか」を眺めます。郷土のスケールでは、葛飾を中心とする東京東部の地形特徴を特に微高地に着目して紹介します。天文のスケールでは、地球から宇宙の果てまで、宇宙の階層構造を辿ります。

プラネタリウムの最新情報、
上映スケジュールなどは
当館ウェブサイトをご覧ください。

景色を見渡して「かつしか」が低地にあることを、
景色を見上げて、私たちが広大な宇宙の中にあることを体感しましょう。



The folklore of Katsushika

かつしかの民俗を学ぶ



かつしかトピック

Topics
003

郷土かつしかの歴史や民俗、
文化財にまつわる話を
不定期でお届けする
コーナーです。

第3話のお題は
ほうろく
「近世の焙烙」!





江戸時代から現代まで流行病にご利益があるといわれています

広がる帝釈天の信仰

柴又帝釈天題経寺は帝釈天を描いた板本尊が庚申の日に発見されたという伝えにより、庚申の日を縁日としています。このことは江戸時代、関東各地の庚申講に大きな影響を与えました。

神奈川県横須賀市長坂には現在も題経寺の帝釈天を模した庚申塔が建てられています。

節分祭



参加者によるお練り

帝釈天の使いである猿と鬼による節分問答



秘仏「摩怛梨天」のご利益を求めて
たくさんの方がお参りに

青戸延命寺の大祭

青戸の延命寺は「疫神様」と呼ばれ、かつては四月の大祭の日に境内で植木市や演芸会が催され、たくさんの参詣客が訪れました。現在も秘仏摩怛梨天の前でお焚き上げが行われ、地域の安全が祈願されています。



4月の大祭にはたくさんの方が集まります。



大祭のお焚き上げ

The folklore of Katsushika

かつしかの民俗を学ぶ

昔から伝わる祭りや年中行事は私たちの暮らしに潤いと活力を与えてくれます。
博物館では葛飾区内でいまでも受け継がれている民俗行事を記録しています。

鳥居に掲げられるしめ縄は
龍を模しているといわれています

東立石の水神祭り

東立石では毎年六月十六日に水神祭りが行われています。その前々日、地域の人たちによって水神の鳥居につける大きなしめ縄を作り変えます。地域の人たちの協力により今年も立派なしめ縄が出来上がりました。

川端南児童遊園(東立石1-23-9先)の側にある本田川端の水神社。昔は中川の河畔にありました。



力を合わせてしめ縄を作ります。



しめ縄は
奥戸の田んぼの稲を使っていました

大しめ縄神事

奥戸の天祖神社の祭礼の前日には、境内に掲げられている大きなしめ縄を作り変える大しめ縄神事が行われています。一日がかりで作った大しめ縄は、天祖神社の氏子の皆さんによって担がれ、地域の安全を祈願して神社の周りを一周します。



境内いっばいに藁が広げられしめ縄が作られます。



出来上がったしめ縄を担いで、神社の周りをひとまわり。



しめ縄を設置しているところ

花祭り



仏像に甘茶をかけているところ

香取神社(東水元) 宮係・総代のみなさん

ひとがた
無病息災を願って人形をお焚き上げ

東水元香取神社の 茅の輪くぐり

六月末、東水元の香取神社では、大きなマコモの輪が鳥居につけられます。夕方には氏子の人たちが持ち寄った紙の人形のお焚き上げが行われます。

人形は厄災の形代で、お焚き上げをすることによって心身の疲れが去っていくといわれています。



罪や、けがれをうつした「人形」をお焚き上げします。

かつしかの民俗 については
令和5年度 特別展
\\The ご利益\\ にて
もっと詳しくご紹介します。

会期 令和5年12月10日～
令和6年2月12日(予定)

葛飾区では大切に継承している方が多い

初午の稲荷祭り

二月の初めての午の日は初午と呼ばれ、葛飾区内では稲荷祭りが行われています。神社をはじめ、旧家の屋敷稲荷やお寺でも稲荷祭りが盛んで、商売繁盛や火の用心を祈願しています。



お供えものが飾りつけられた稲荷社

赤飯や油揚げ、
甘酒などを
お供えします。



稲荷祭りとは

稲荷社は全国に3万社あるといわれ、農業をはじめあらゆる産業の振興にご利益がある神様といわれています。葛飾区では屋敷神として祀っている家が多いです。赤い鳥居とキツネがシンボルです。

西水元大畑稲荷社の例大祭当日の様子

近世の焙烙^{ほうろく}

焙烙^いは炒るための調理具です。今日、目にすることはほとんどありませんが、近世には多く使われていました。焙烙^いが出現するのは16世紀頃^{どなべ}で、土鍋^{うつわ}の系譜を引き、器の高さが低くなったものと考えられています。17世紀以降の近世も、焙烙は都市や農村で使用されていたとみられます。

関東地方では上野^{こうずけ}、北武蔵^{きたむさし}を中心に分布する瓦質^{がしつ}と、常陸^{ひたち}、下総^{しもとうさ}に主体的な土師質^{はじしつ}の二つの系統があります。瓦質の焙烙はやや暗い灰色、土師質は褐色を呈しています。葛飾区域では、瓦質、土師質の両者が出土しています。瓦質、土師質それぞれの焙烙が分布する範囲は流通圏と認識でき、葛飾区域は二つの焙烙の流通圏が重なっていたことが分かります。

瓦質の焙烙、土師質の焙烙ともに底部は平らです。これに対し、都市江戸の焙烙は丸底のものが主流でした。平底の焙烙は内面に内耳^{ないじ}と呼ばれる取手が付き、囲炉裏^{いろり}に吊るした使用が想定されます。一方、丸底の焙烙は内耳がなく、焔炉^{こんろ}などに置いて使用されていたようです。火処^{ひどころ}の違いが焙烙の形態の差異となっていたと思われます。18世紀後半になると丸底の焙烙も葛飾区域でもみられるようになりますが、依然として平底の焙烙が主体的に用いられていました。丸底の焙烙は都市部の密集した空間での移動可能な焔炉などで火の使用に適していたのに対し、農村部は囲炉裏という火処の対照性が窺えます。



がしつ
瓦質

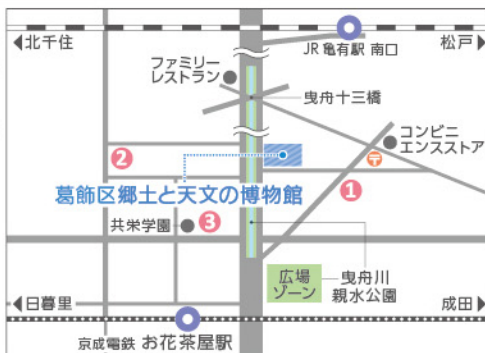


はじしつ
土師質

ご利用案内・アクセス

開館時間	午前9時～午後5時 (金・土曜日は午後9時まで開館。ただし金・土曜日が祝日の場合、午後5時に閉館。入館は閉館の30分前まで)
休館日	月曜日、第2・4火曜日 (月曜祝日は開館。火曜祝日は開館し翌平日休館)
入館料	大人 100円 小・中学生 50円 幼児無料 (毎週土曜日は中学生以下無料。)
プラネタリウム観覧料	大人 350円 小・中学生 100円 幼児(座席を使う場合) 50円 (毎週土曜日は中学生以下無料。)
年間パスポート	大人 2,000円 中学生以下 700円 購入から1年間、入館料とプラネタリウム観覧料が不要になります。購入時にご希望があれば、「博物館だより」(年3回発行)を1年間お送りします。

この印刷物は、印刷用の紙にリサイクルできます。



〒125-0063

東京都葛飾区白鳥3-25-1

電話 03-3838-1101 FAX 03-5680-0849

WEBサイト <https://www.museum.city.katsushika.lg.jp/>

電車	京成電鉄「お花茶屋」駅から徒歩8分 JR常磐線「亀有」駅から徒歩25分
バス	① レインボーかつしか(有71・72・74系統)又は京成タウンバス(有70系統)で「白鳥わかば公園」バス停下車 徒歩3分 有71・72 ウェルビアかつしか～お花茶屋駅～亀有駅南口 有74 ウェルビアかつしか～亀有駅南口～新宮橋 有70 金町駅南口～亀有駅南口～ウェルビアかつしか又はタウンバス車庫 ② 京成タウンバス(有57系統)で「上千葉小学校」バス停下車 徒歩5分 ③ 京成タウンバス(有57・綾02系統)で「共栄学園」バス停下車 徒歩5分 有57 亀有駅南口～お花茶屋駅～葛飾区役所又はタウンバス車庫 綾02 タウンバス車庫～葛飾区役所～綾瀬駅

！最新情報はウェブサイトをご覧ください。

